

自然と文化科 活動記録

日時	2025年2月7日 10:00~12:00	担当者
場所	午前：研究部共通講座 浪速区民ホール 午後：企画：中ノ島橋巡り 観察：会議 調査：長居公園 社会貢献：星野リゾート	文・写真： 古荘光子
備考	参加人数 1班 17名 2班17名 3班16名 4班13名	合計63名

1. 講演のテーマ：「生物多様性全般から淀川の淡水魚やイタセンパラの生態について」

2. 講演者名：丸山 勇氣先生

大阪環境農林水産総合研究所

3. 講演要旨：「知ろう・伝えよう おおさかの生物多様性」

1—生物多様性の3つの階層



- ① 生態系の多様性 生態系は孤立したものでなく、どこかで他の生態系とつながっている。
- ② 種の多様性 たくさんの生物は生息に適した環境で生きている。
- ③ 遺伝子の多様性 個体ごとに目に見える個性と目に見えない個性がある。

2—生物多様性の4つの危機

- ① 開発など人間活動による危機 生息地の破壊、過剰な採取でなく、持続可能な使い方が必要。
- ② 自然に対する働きかけの縮小による危機 近年ライフスタイルの変化などで、里地里山の生態系は危機的状況にある。雑木林・水の不安定が安定の「水田」の変化。
- ③ 人間により持ち込まれたものによる危機 国外外来生物・国内外来生物（蛍の放流会の例）
- ④ 地球環境の変化による危機 地球温暖化や砂漠化。（ヒョウモンダコ・ソウシハギ）

3—生物多様性の理解

4—大阪府多様性ホットスポット

2000年に調査観測8700種（2014年97種絶滅）

- ・ブナ林（和泉葛城山） ・雑木林（三草山） ヒロオビミドリシジミ、ギフチョウ
- ・水田（能勢棚田・高槻の水田群） ミナミメダカ、アキアカネ
- ・ため池（八尾ため池・泉州ため池・府内11000ヶ所） ナニワトンボ、オニバス
- ・湿地（貧栄養湿地・地黄湿地・信太山湿地） トキソウ、ヤマトサンショウウオ
- ・干潟（男里川河口干潟） トロハゼ、ハママツナ

5—淀川は淡水魚70種（全国10位）。純淡水魚50種（全国1位）。

イタセンパラ（板鮮腹）コイ科タナゴ亜科 8cm

淀川・濃尾平野・富山平野のみ 秋：雌がイシガイに産卵（貝の中で受精）春：貝から浮出

6—野生復帰に向けて H21~24年 外来生物駆除作戦 籠モンドリや外来魚や植物駆除

7—外来種駆除の成果 在来種20種復活したがイタセンパラ確認できず。

8—イタセンパラを守る市民運動 月3回 地引網とごみ拾い、河川清掃をしている。

2013年イタセンパラ500尾放流。2014年稚魚誕生。2018年2万尾。2023年確認できず。

9—あらたな危機 ニートリア、アメリカナマズ、コクチバス、オオバナミズキンバイ

〇まず、外来種が入ってこないように。外に逃げ出した場合影響を予測するのは不可能。

外来種の持ち込み、飼育・栽培は慎重にしなければならない。

飼育環境にウイルス・雑菌・ダニがいることもある。